

# 小江戸川越 春まつり

春になると暖かさとともに、人もまちも表情が生き生きとします。  
ことしで十六回目を迎えた、「小江戸川越春まつり」。三月二十七日、晴天に恵まれたオープニングイベントでは、さまざまな催しが行われ、たくさんの歓声に包まれました。四月二日の新河岸川桜まつりでは、新しい舟の進水式がありました。  
そんなことしの春まつりで出会った、たくさんの表情をご紹介します。



新河岸川桜まつりの花見舟



小江戸川越大使も参加した、オープニングのテープカット



西川材で作られた新しい舟の進水式



石原のささら獅子舞



えいっ!



人力車の体験乗車



ふかし芋の無料配布には行列が



気分は義経!?



雨のため、自治会館の廊下を使って行われた老袋の万作



みんなでパワーを送っています



まちのできごと  
川越市の面積は109.16km<sup>2</sup>

# 109パレット



上に飾りのある2本の旗が大旗です

## 大旗、30年ぶりにたなびく

日枝神社（小仙波町1丁目）の大旗が拝殿の改築を祝い、30年ぶりに立てられました。4月2日、喜多院の本堂から長さ19mの旗ざおを運び出し、クレーンで土台に立てました。大旗は縦13m、横1.8mで、書は幕末の三筆の1人といわれている、市河米庵が書いたそうです。「こんなに大きな物をよく作ったなあ」と、参加した皆さんは大旗を見上げていました。



旗も土台もかなりの大きさ

## 桜のトンネルをのんびりと

4月9日、伊佐沼の西側に連なる桜並木をゆっくり楽しんでもらおうと開催した「伊佐沼畔花見の道広場」。約15,000人が訪れました。満開になった桜の下、歩行者天国になった道路では、弁当を広げながら花見を楽しむ人も。「ゆっくり歩きながら桜を楽しめてよかった」「車で通る風景と違って別世界ね」と好評、春のひとときを満喫していました。



満開の桜に大満足



服や小物などの店が、11店並びました

## 織物市のにぎわいを再現

桐生市の織物市場は、川越織物市場開設にあたって参考にした市場の1つです。同市では市場のあった通りを使って買場紗綾市（織物市）が復活しています。4月16日、旧川越織物市場に同市の皆さんがやって来て買場紗綾市が行われ、本物の市場を使った往時の織物市のにぎわいが再現されました。「今後も年1回は続けていきたいですね」と川越織物市場の会事務局長・小島延夫さん（45歳・松江町2丁目）。



職人ならではの精密な作業

「ぜひ川越まつりに来たい」という感嘆の声が多く聞かれました。現在も山車を制作中の原さん。「また皆さんに見てもらえるように」と頑張っています。

原晃申さん（73歳・旭町一丁目）会場に入ったとたん、自分が大きくなったと錯覚するほど、精巧に作られた山車。正確に七分の一の大きさです。原さんは平成二年ごろに、写真を撮ったり実際に採寸したりして、設計図を作成することから始めました。部品は二千個以上。くぎは一切使いません。彫刻や幕、人形にいたるまで、ほぼ正確に再現しています。そのため、一台の山車を造るのに、一年半から二年もかかります。「やっぱり好きじゃないとね」と、照れくさそうに話してくれました。建具職人の原さんは、造った山車を作業場の隅に置いていました。「眠らせておくのはもったいない」と、これを見た自治会の皆さんたちがボランティアとして協力。展示会を開催し、十台の山車を披露しました。すると、三月二十八日から四月七日の間に三千五百人以上が来場。「すばらしい！」「ぜひ川越まつりに来たい」という感嘆の声が多く聞かれました。



山車が並んだ展示会の様子

かわい  
川  
越  
び  
と  
人  
13